

出題分析		
試験時間 90分	配点 120点	大問数 5題
分量 (昨年比較) [減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/>	難易度変化 (昨年比較) [易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化 <input type="checkbox"/>	
【概評】 昨年と比較すると、大問の出題傾向や分量には大きな変化がなかった。全体の難易度に関しても、昨年と同様に難しい。大問Ⅰの長文読解問題が特に難しいことも例年通りである。試験時間の割には問題の分量が膨大で、大問によって難易度の差も大きいため、解ける問題を取りこぼさないようにしたい。		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 (ゲーム理論から見た人間の協力関係)	「人間社会における協力関係」に関連した3つの英文を読み、15問の設問に答える問題。本文中で言及のあるさまざまな理論の要点を整理しながら読み進めることが求められる。決して容易に解答できる大問ではないが、他の大問を解く時間を考慮すると、ここであまり時間をかけていられないだろう。	やや難
II	整序英作文問題 (素数とアルゴリズム)	短めの英文中の5か所について、単語を適切な順序に並べ替えて英文を完成させる問題。英文は素数に関するものである。本文中には「素数」や「因数分解」など、数学にまつわる英単語が多く見られる。解答が思い浮かばない場合でも、選択肢から逆算すればある程度語順を絞り込むことができるだろう。	標準
III	A. 英文空所補充問題 (海由来の化石が山の頂上で見つかるのはなぜか) B. 文・段落整序問題 (思考パターンは人間の学習に影響を与えるのか)	Aは、数か所の空所を含む短い文章を読んで問いに答える問題。比較的趣旨を理解しやすく、読みやすい英文であった。Bは、5つの段落を並べ替えて英文を完成させる問題で、難易度は標準的である。5つの段落のうち、1つはさらに5つの文を並べ替えて完成させる必要がある。	標準

設問別講評			
IV	A. 短文読解問題 (誤謬の3つの例) B. 短文読解問題 (反復練習による学習効率逓減のモデル)	Aは3種類の誤謬の説明とその具体例についての英文を読んで問いに答える問題である。例年どおり、純粋な英語力に加えて論理的思考力が求められている。Bは、 the power law of practice と呼ばれる法則に関する英文である。問題文中に数式が提示されているものの、計算が必要な設問はなく、英文が理解できていれば比較的素直に解ける問題である。	標準
V	語彙問題	各設問に定義と例文が2つずつ与えられており、その例文中の空所に共通して入る単語を答える問題。15問すべてが同じ出題形式である。単語自体はどれも語彙レベルがそこまで高くないので、与えられた定義からいかに連想できるかがカギである。	標準

合格のための学習法

大量の設問を効率的に処理していかなければならず、受験生にとってはかなりの負担である。ただし、大問ごとの難易差が大きく、特にVは設問形式に慣れるかどうかで解答速度が大きく変わる。Iの長文においては、特に抽象的・専門的な文章が出題されることが多く、読解は容易ではない。一部の得点すべき設問を取りこぼすことのないよう、まずは通常読解力を伸ばしてほしい。全体として出題される英文の内容は理系的なもの、特に科学的方法論・手法について述べた文章が頻出なので、そうしたものに読み慣れておくとよいだろう。